

- 2 減災準備へ注意喚起
- 3 被葬者は遠来の人
- 4 まるで!! 本屋さん

### あなたが地域の主人公 23

2年近く続いたコラムも今回で最終稿。最後に市民活動の流れについて、気になっていることを3つほどまとめたい。

①市民活動の今後  
市民活動の流れは「阪神淡路大震災(1995年)」を契機に大きく変わったと何度か書いた。

#### 市民活動の流れ

ソーシャルビジネスのように非営利ではあるが、収益をあげ持続可能な経営も増えてきている。CSR(企業の社会的責任)、有償ボランティアという言葉も普通に使われるようになった。非営利という考えが社会の

なった。NPO法人は認定制度などに深化し、より社会で責任ある活動が可能となった。社団法人・財団法人も一般と公益に分かれ多様化が進んだ。また株式会社が公益的な指定管理施設を運営する事例も増えた。

#### 未来見据え主体的に

迅速に柔軟に行動すること。縦割りや予算に縛られる行政との協働事業に、NPOが入ると風通しが良くなることは何度も感じた。今後は単なる連携から地域のステークホルダー(多様な主体)が同列でつなが

柱として大きくなったというより、ソーシャルとビジネスの境目が低くなってきたと思う。支援センターも意識変革が問われている。

#### ②NPOの役割

市民活動団体の特徴は、社会課題に対して先駆的に

る協議体において、NPOが重要な役割を担っていくべきと思う。NPOが力をつければ、社会が変わる。



2月11、12日、サポートセンター周辺で開かれた「のたろんフェア」に参加した86団体の関係者たち。述べ6500人を超える来場者があった

#### ③地域の課題

当コラムのタイトル「あなたが地域の主人公」。耳に心地よいが、日本が抱えるさまざまな課題を半歩先取りする横須賀にとって別の意味もある。

「少子高齢化」「地域経済の不振」にいかに対処するか。行政だけでは限界があることは市民も重々わかっている。市民協働しなければ、民間がより連携しなければ、市民が主体的に動かなくては、未来がない。つまり皆

が主人公のつもりで動かざるを得ない現状がそこにある。横須賀で市民活動が活発なのは必要に迫られてなのだ。それは日本の未来の先取りでもある。



コラム執筆に絡めて多くの方々とお会いした。中でも県立保健福祉大学の元前学長のお二人には多くの示唆をいただいた。阿部志郎先生には市民としての生き方の指針を、山崎美貴子先生には市民活動支援のゆるぎない方向性を教えられた。この場を借りて感謝したい。(横須賀市立市民活動サポートセンター館長・高橋 亮)

訂正 前回「あなたが地域の主人公」②で、テーマカットは「のたろんフェア」の誤りでした。おわびして訂正いたします。

横須賀日日新聞 第60号  
2017年3月5日

### あなたが地域の主人公 23

テーマ：市民活動の流れ  
(未来見据え主体的に)

※許可を得て掲載しています。